

令和6年度 夏休みちょこっとボランティア 実施記録

青少年の健全育成を推進するとともに、地域との交流を促進するため、夏休み期間中(7/26~8/21)に、中学生が放課後児童育成事業所でボランティア体験を行う事業を実施しました。本事業は、2年目の開催となり、昨年に比べ、より多くクラブの協力を得て、多くの中学生に参加してもらうことができました。

参加者数・派遣先クラブ数

参加者総数

合計		内訳	1年生	2年生	3年生	区内	市内	市外
R6	62名		23名	22名	17名	42名	17名	3名
R5	48名	15名	15名	18名	29名	16名	3名	

南区内の参加者が増えました！

派遣先クラブ数

合計		内訳	放課後キッズクラブ	放課後児童クラブ
R6	22クラブ		17クラブ	5クラブ
R5	16クラブ	12クラブ	4クラブ	

昨年も参加してくれたリピーターもいました。

オリエンテーション(7/24@大岡地区センター、7/25@区役所会議室)



7/24, 25日の2日間(参加者はいずれか1日に参加)、オリエンテーションを開催しました。

- ボランティア活動について
講師：南区ボランティアセンター阿部祥代氏
- 放課後キッズクラブ・学童での活動内容
講師：第1みなみひまわり指導員 大平準氏(24日)
南太田小キッズクラブ主任 小川暁美氏(25日)

【アンケート抜粋】

- ・ボランティアに関するクイズがあったりして、ボランティアとは何か、よく理解することができた。
- ・グループワークが楽しかった。

ボランティア体験

62名の参加者は、22のクラブに分かれ、それぞれ1日~複数日活動しました。活動が楽しかったため、当初の予定よりも活動日を増やした中学生もいました。多くの中学生が、「誰かのために役に立てた」ことを、実感しました。

小学生の宿題の見守り



お昼ごはんの見守り

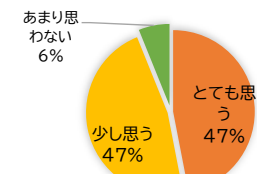
イベント(緑日・水遊びなど)の手伝い



折り紙・ゲームなど

【アンケート抜粋】

- ・スタッフの人も小学生の子たちも楽しかった。しかもすごく楽しくて、夏の思い出になった。
- ・先生からは、「ありがとう、助かったよ」と言われ、子ども達からは「また遊んで～」と言われ、すごく嬉しかった。
- ・これからもボランティアを続け、子ども達ともっと仲良くなりたい。



「誰かの役に立てた」と思う参加者は94%!

修了式(8/22@区役所会議室、8/23@大岡地区センター)



8/22, 23日の2日間(参加者はいずれか1日に参加)、修了式を開催しました。

グループで、「楽しかった事」「大変だった事」「今度やってみたい事」等を話しました。最後に参加賞をもらい、活動のライドショーを見て、他の参加者の活動を写真で見たり、自分の活動を振り返ったりしました。区役所からは、また来年も参加してねとのメッセージがありました。

【アンケート抜粋】

- ・初めて会った他校の人とも、みんなで一斉に笑ったりして、打ち解ける事ができた
- ・意見交換で、他の人が経験した事、思った事を共有できた。
- ・ライドショーを見て、振り返ることができ、懐かしかった。

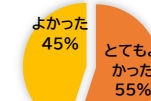
【参加賞】 みなっこのおはしセットとミニタオル

受入れクラブアンケート結果

受入クラブへのアンケートで、ボランティアを受入れたことが、**児童にとって「とてもよかった」「よかった」と回答した割合は、100%**でした。一方で、ボランティアの受入れによって、**クラブの負担が「減った」と回答した割合は、30%**にとどまりました。**ボランティア受入によって、クラブの負担は必ずしも減るものではないが、児童の経験が充実することや、地域の中学生に、キッズ・学童の事を知ってもらえる点について、受入れのメリット**と感じているクラブが多いという事が分かりました。

また、今後については、「地域の中学生にもっと来て欲しい」「この企画を長く続けて欲しい」「将来クラブで働いてみたいと思ってくれたらクラブにとってもメリットがより増える」「クラブが、小・中学生~高校生にとっても笑顔の居場所になれるといい」等、事業に対する長期的な期待が寄せられました。

児童たちにとって、ボランティアを受け入れたことは、よかったですか？



まとめ・今後に向けて

参加者のアンケートでは、「またボランティアをしてみたいと思う」割合、「全体の満足度」の割合は、共に100%でした。また、「来年も絶対参加する」「今度は他のボランティアもやってみたい」という次につながる記載も多く見られました。一方、現状で、「中学生が参加できるボランティアが少ない」という意見や、区外の参加者からは「自分の地元でも活動したい」など、中学生にとって、ボランティアをより身近なものにしていく必要がある可能性が読み取れました。

「また、参加したい~!」

